

京図協実務研修会（南部会場）

未就学児へのおはなし会の本の選び方・すすめ方

H29.11.16. 京田辺市立中央図書館

元関西大学非常勤講師 川上博幸

はじめに

「子どもの読書」＝「(ことばを) 耳から (聞く) の読書」＋「(文字を) 目で読む読書」

I おはなし会

(1) おはなし会・用語の確認と解説

- 「おはなし会」という用語は、現在、定義があいまいで多様に使われる用語
 (ある)「場」において、小集団に、「対面」しておこなうこと (朗読会とは区分)
- イ：ストーリーテリング (語り・口承) の手法で、子どもを本の世界に誘う活動
 - ロ：対面して、読み聞かせやストーリーテリングの手法で、子どもを本の世界に誘う活動
 読み聞かせ、読み合い、開き読み、読み語り、語り聞かせ、本読み、多彩な呼称
 - ハ：子どもにいろいろな手法で、おはなしや物語のたのしさを体験してもらう諸活動
 → おたのしみ会 (パネルシアター、エプロンシアター、楽器の使用や演技の導入)

(2) 口承の行為・活動

1 ストーリーテリング

- おはなしの世界へ誘う： 声とことばによって、おはなしの世界へ引き込む
- 語り： 顔：Face To Face → 眼：Eye To Eye → 心：Heart To Heart
- 効用：おはなしの世界で、心の喜怒哀楽の体験をする “魂” の交換
- 対象：比較的少人数 (20人程度以下) → 本来のおはなし会／語りが主

2 読み聞かせ

- ・一般に、本を声に出 (音声に) して読む (読んでやる・あげる) 行為 (活動)
 読み語り、語り読み、開き読み、読み合い、読む (単に) など、の呼称も
- ・幼児：文字が読めない子に代わって、本の内容を声に出して伝えること
 言葉は獲得できているが、文字はまだ読めない子どもに文字を読んでやること
 ブックスタート活動とは区別
 一応、文字は読めるが、たどたどしい子、(文字が十分読めない子)
- 対象：中人数 (20～50人程度)
- ・子どもと一緒に本を楽しむ、読書の楽しみを知らせるのに、最も素朴で簡単で、最適の方法はこれにつきる。

3 口演童話 (紙芝居ではない)

- ・童話を、身振り手振りを交えて口演する活動。巖谷小波、久留島武彦、岸辺福雄など。昭和前期まで、公共図書館、公民館などひろく行われた。戦後、衰退。現在は少数。
- 対象：大人数 (100人以上の大多数も可)

(3) 口承活動の意義と効用

意義： 読書（のよろこび）へ導くことが可能

- ・読み手と聞き手の（心の）交流
- ・同じ時に、同じ場で、共に聞いた、聞き手どうしの経験と心の交流がある
- ・子どもは全身全霊で聴く ⇨ 登場するものになりきって、喜怒哀楽を味わう

効用： 至福の時を大切に

- ・物語世界のなかで、（登場物などと共に）「ことばの体験」をする
- ・独自の想像力が、さらにたくましく豊かに ⇨ イメージの形成力
- ・読む力を培う ⇨ 読解力へ
- ・同じ「場と時」で物語世界を共有した経験共有

(4) おはなし会の大まかな対象 → 相手を熟知する

1 幼児／年少（3歳前後）：そろそろ「おはなし」を聞ける段階にきている

- ・絵本の読み聞かせに参加は十分可能 → おはなし会に誘う
- ・リズムや歌の要素がある、ごく短い小ばなしを会得すると、この年代向けに可能
リズム＝（一定の規則を持って繰り返す）長短、強弱、速度などの組み合わせ

☆2歳前半までは、わらべうたなど、手あそび、歌あそびなどの経験の有無による自立歩行、単純なことばがわかる、直接体験と興味関心、耳情報、目情報、体験身近な食べ物、動物に関心 → この種の絵本（「もの」の絵本＝再認絵本／電車）そろそろ（第一次）反抗期、自我の芽生え

2 幼児／年中・年長：おはなし会の参加対象として適している

- ・この年代が楽しむ素材を、心がけて身につけていく
- ・聞き慣れてくると、おはなしの楽しさを知ると、長い物語を聞けるようになる

これはのみのぴこ 谷川俊太郎作 和田誠絵 サンリード
エルマーの冒険 ガネット作 福音館書店

☆3, 4歳：生活リズム、身の周りのことができるように、主人公になる、想像力、筋生活絵本（直接体験を再認）、観察（昆虫、小動物／カブトムシ、カエル）起承転結

はははのはなし かこさとし著 福音館書店

かいじゅうたちのいるところ センダック作絵 神宮輝夫訳 富山房

☆5, 6歳：話す、体を動かす、原始感情、未知への強い興味関心・好奇心、昔話、物語精神面の芽生え、心の発達、読字できる子ども

だいくとおにろく 松井 直再話 赤羽末吉画 福音館書店

ぼくパトカーにのったんだ 渡辺茂男作 大友康夫絵 あかね書房

十二支のはじまり 谷真介文 赤坂三好絵 佼成出版社

3 赤ちゃん：対象にならず

- ・声かけ（ことばかけ）、肌合わせ（スキンシップ）、目合わせ（アイコンタクト／視線）
- ・ブックスタート活動（略）

もこ もこもこ 谷川俊太郎作 元永定正絵 文研出版

II 未就学児対象のおはなし会の適材（テキスト）の選び方

(1) 基本事項

- 1 聞く対象に応じたもの①長く人気があるもの（定番）②適度な長さ（10分～15分）
- 2 「起承転結」（はなしの筋）が明瞭
典型：ちいさなねこ 石井桃子作 横内穰絵 福音館書店
- 3 ことば：重ねことば、となえことば、ことばあそび、なぞなぞ、擬音、擬態語
- 4 発達、成長段階とその時期の課題と興味・関心にあう
- 5 地域に伝わる昔話・民話 → 地域に関わる、伝説・伝承・言い伝え、世間話
- 6 語り手が、幼児に楽しんでほしいおはなし、幼児に是非伝えたい話、心底楽しんだ話

(2) ストーリーテリング

- 1 ことばに配慮：①研ぎ澄まされたことば ②耳になじむことば ③音韻、リズム、響き
- 2 語り口調：定型（昔話が典型）①繰り返す ②時系列通りに展開 ④事件、会話で進行
- 3 内容：①軸になる太い筋がある ②心理描写がない ③違う場面に転換がない（飛躍）
- 4 昔ばなし・民話が最適／日本の語りつがれた著名な話、グリム、アジア、世界の民話

(3) 絵本

- 1 明瞭な絵（太めの輪郭線、地、配置）、遠見のきく絵、大きな判型
- 2 読み聞かせ用大型（ビッグ）絵本を使用することも可
- 3 絵と文の均衡 →（見開き画面に細かく書き込み）×（1ページあたりの文章量）
- 4 「素朴、単純な絵」＋「素朴、単純なお話」の絵本
典型：おおきななまこ トルストイ再話 佐藤忠良絵 福音館書店
- 5 物語る絵であること（芸術的な絵が勝る絵本は避けて良い）
ふしぎなたいこ 石井桃子文 清水崑絵 岩波書店
ウェン王子とトラ チェン・ジャンホン作絵 平岡敦訳 徳間書店

III おはなし会のやり方

- 1 [なにを] おはなし（語る内容、作品） Ⅱ
年齢が低い場合ほど、語る素材がなによりも重要 → 聞き手に応じたもの
- 2 [だれが] 語り手（読み手） → 図書館員、子どもの読書活動家、はなし家 芸人
・既知どうし、日常で適度に交流がある → 素材選びに経験と勘が働く
・一元的な場で対面、初対面 → 未知の子、年齢を参考に、一般的なものを主にする
- 3 [だれに] 聞き手＝未就学児： 楽しめる範囲（聞こえる／見える）にいるか。（確認）
・既知どうし、日常で適度に交流がある → 聞き手は緊張度が低い、場なれの子も
顔をみて判断、確認 → すぐに始めて良い。
・一元的な場で対面、初対面 → 聞き手は緊張度が高いので、語り手がほぐす配慮を
前座でほぐして確認 → おしゃべり、クイズなどから導入、おはなし語りへ
・発達障害の子どももそれとして対象に・特殊学校支援（子ども読書推進計画第3次案）

4 [どのように] 語り方 (読み方) : 語る前に聞き手を見まわす

- ・よく届く声で (聞きやすい、耳になじむ音質の人は得)
- ・語る速度、リズム
- ・はじめは、ゆっくり語り (読み) 始め、声が聞き手に届いているか確認する
- ・幼少の子では、大きな声を怖がる子がいるので、大きすぎないように配慮
- ・ろうそくは必ずしも必須ではないが、「火」は人を集中させ、集中度を高める
- ・はなしが持つ展開の速度と、語る速度を、合わせたり調整したりする

<読み聞かせの場合/絵本など>

- ・時には、はじめに、手あそび、クイズ、詩やうたなど、ざわめきを鎮めることも必要
- ・聞き手が座っている場合なら、座って読むか、
- ・広い場で立って読む場合は、絵本の持ち方を定める
前 (胸、腹)、右に持つ、左に持つ、頭の上に持つ (屋外など、特に広い場)
- ・座って読む場合、絵本を少し下向けに持つ、上向きにならないこと
- ・絵本の場合は、絵が (後ろまで) 見えること、遠見がきく絵、版型が大きいもの
- ・絵本の位置と聞き手の目の位置 (視線) → 聞き手の視線が極端に上向きにならない
- ・持つ絵本が微動しないこと
- ・めくり方の基本=手前から向こうへ/めくる手で絵の主要部分を遮らないように
- ・必ず絵本を使わないといけないことはない (単行本、短編集可)
- ・文字の詰まった絵本や単行本をなぞり聞かせる手法もある
- ・マニキュア、ネイルはさけない (てぶくろ可)

5 [どこで] 場 (屋内、屋外) : 場により集中度が変わる/基本的には室内外ともに可能

- ・広すぎない部屋が適切だが、屋外である場合もある
- ・暗い場 (暗さ) を極端に怖がる子がいる (そんな子がないか確認)
- ・一定 (暗すぎない範囲) 薄暗いほうが、幼児の集中力は高まる
- ・お話の場合は (はじめ) 「場」を選ぶことがある (騒がしさ、人のざわめきなど)
- ・テント、幌 (ほろ) 内など
- ・集中を妨げるものがないこと (動くもの、人気があるもの、刺激的な絵や置物など)

6 公図・学図の実践記録や参考資料、出版された参考図書があるので、活用を図る

0~5歳 子どもを育てる「読み聞かせ」実践ガイド 児玉ひろ美著 小学館

IV 補遺

- 1 未就学児が、たのしいおはなしを聞き、味わい、たのしさを体感することが重要
しっかりことばを体得すること、これが、のちに、読む基盤となる
- 2 「読む喜び・読書につないでいく」ということを忘れない
- 3 笑いを意識して取としない、ウケねらいをしない

参考図書: 先生が本 (おはなし) なんだね 伊藤明美著 小澤むかしばなし研究所
えほんのせかいこどものせかい 松岡享子著 日本エディタースクール出版